



セグエグループ株式会社

【証券コード：3968】

2019年8月21日

本資料に記載された意見や予測などは資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。
さまざまな要因の変化により実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。



2019年6月26日 東京証券取引所より一部銘柄に指定されました



皆様のご厚情とご支援に心より御礼申し上げます。
新たなステージに立ったこの機会に、皆様のご期待にお応えを
できますように、役員社員一丸となり経営にあたり大きな飛躍を
目指してまいります。

1. 2019年第2四半期ハイライト
2. 事業環境と今後の施策
3. 長期ビジョン
4. 参考資料

1. 2019年第2四半期ハイライト



計画通りの進捗

売上・売上総利益・営業利益ともに第2四半期過去最高を達成

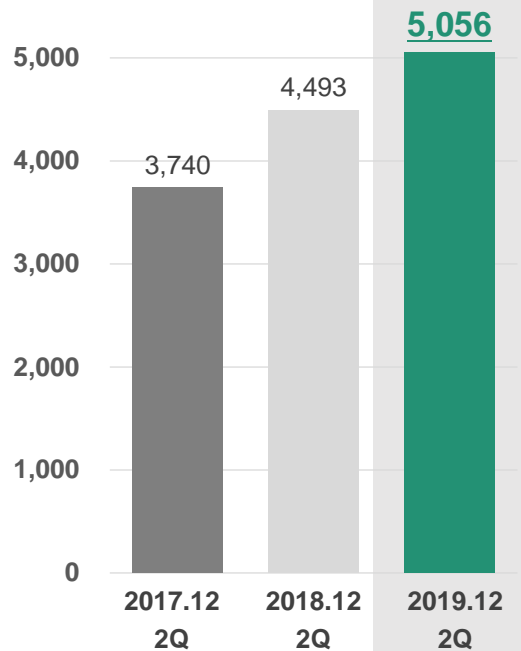
() 内：前年同期比

売上高	売上総利益	販売管理費	営業利益
50.56億円 (12.5% UP)	12.93億円 (17.2% UP)	9.84億円 (20.7% UP)	3.09億円 (7.2% UP)

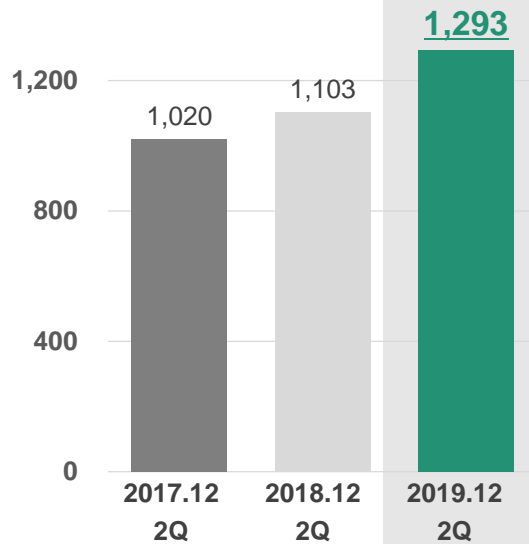
売上総利益 前年同期比17.2%増 過去最高額を達成！！
先行投資含む販売管理費約1億6,800万円増加を吸収し、
営業利益でも約2,000万円の増益

- ✓ プロダクトの販売が好調
- ✓ 保守・サブスクリプション及びヘルプデスク等のサポートサービス販売も堅調に推移
- ✓ 将来の成長に向けたM&A、人財や社内環境・システム等への積極的な投資を実施

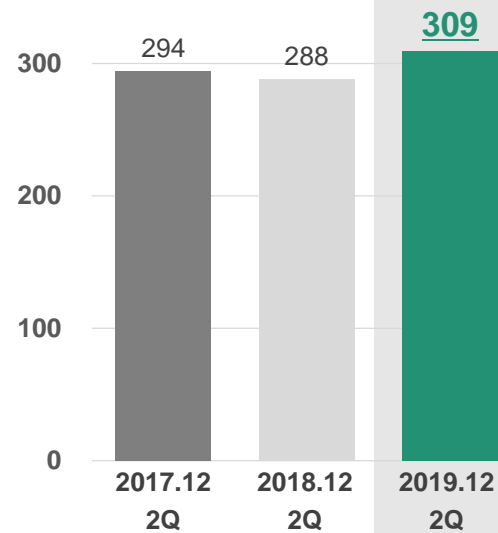
売上高（百万円）



売上総利益（百万円）



営業利益（百万円）



当初予算通り推移（第1四半期偏重が緩和傾向）

四半期の売上高と営業利益の推移



売上高の大幅増により、各利益額が増加
 前期に有価証券売却益（66百万円）を計上した反動により、純利益は減少

単位：百万円

	2018.12 2Q累計	2019.12 2Q累計	前年同期比		通期計画	進捗率
			増減額	増減率		
売上高	4,493	5,056	562	12.5%	9,476	53.4%
売上総利益	1,103	1,293	189	17.2%		
（利益率）	24.6%	25.6%	+1.0pt			
販売費及び 一般管理費	815	984	168	20.7%		
営業利益	288	309	20	7.2%	566	54.6%
（利益率）	6.4%	6.1%	▲0.3pt			
経常利益	294	305	10	3.7%	574	53.2%
（利益率）	6.6%	6.0%	▲0.6pt			
純利益	246	200	▲46	▲18.8%	371	53.9%

堅調なストック売上 前受金が前年同期比で約1.3倍に

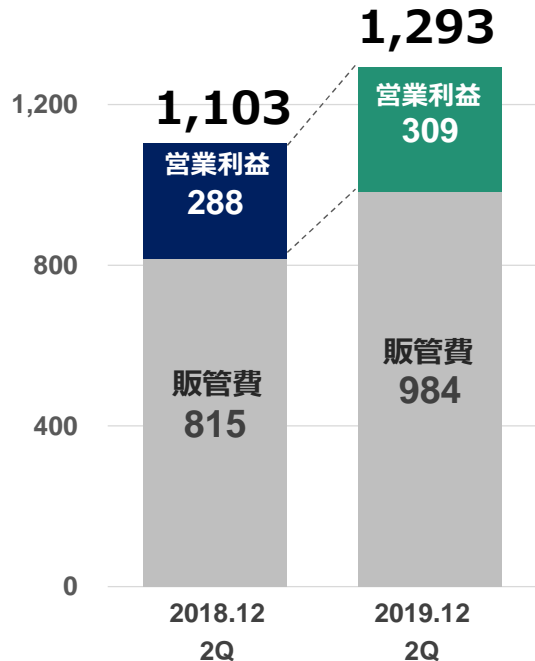
単位：百万円

	2018.12 2Q	2018.12 4Q	2019.12 2Q
流動資産	4,371	4,359	4,958
現金・預金	2,016	1,663	2,020
受取手形、売掛金及び 電子記録債権	968	1,189	1,420
たな卸資産	612	686	471
その他	774	819	1,045
固定資産	1,123	990	1,228
有形固定資産	199	167	180
無形固定資産	145	219	309
投資その他資産	778	603	738
資産合計	5,495	5,350	6,187

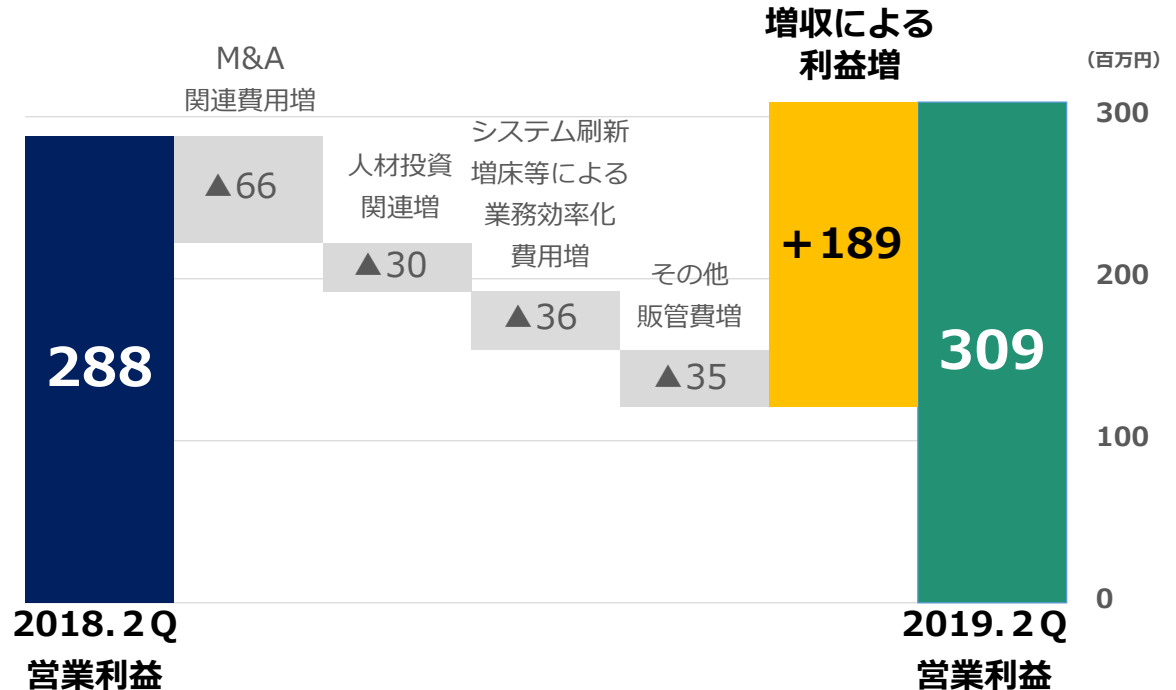
	2018.12 2Q	2018.12 4Q	2019.12 2Q
流動負債	2,721	2,685	3,297
買掛金	638	595	648
短期借入金等	-	-	11
前受金	1,538	1,620	2,018
その他	543	470	620
固定負債	283	213	247
負債合計	3,004	2,899	3,545
純資産合計	2,490	2,450	2,641
負債純資産合計	5,495	5,350	6,187

前受金の推移 ソリューションサービスのうち、サポートサービス・サブスクリプション等の
ストック性のある将来売上を測る指標

売上総利益（百万円）



先行投資による販管費増を増収で吸収



事業アクション

プロダクト

- ▶ 主要取扱い製品への注力
⇒ 製品の販売とともにサポートサービスの売上増加
- ▶ AIを実装したセキュリティソリューション 米国Stella Cyber取扱開始
- ▶ イスラエル IoT、IIoTセキュリティソリューションCyber-X取扱開始

自社製品

SCVX

- ▶ V3.0 クラウド対応 ⇒ NTTグループでサービス提供用に採用
- ▶ 大手地銀からすでに案件受注済のほか 導入検討案件が複数進行中
今期下半期から来期上半期にかけての受注・売上を視野

自社製品

RevoWorks

- ▶ 秋以降のリリースへ向け開発の推進

自社製品

WisePoint

- ▶ Version7のリリース

成長のための投資

採用強化
業務効率化

- ▶ 積極的な中途社員の採用
(管理職、営業、技術、マーケティング) により組織的な展開が可能に
- ▶ ITエンジニアを中心とした人手不足の事態に備える
- ▶ 業務効率化を推進 (システム刷新、増床)

資本提携
業務提携

- ▶ 2019年1月
AIを用いたメンタルヘルスケアソリューションサービスを提供する
株式会社ラフールと資本業務提携



M&A

- ▶ 2019年3月
株式会社アステムを子会社化
九州、中国地区の事業強化



2. 事業環境と今後の施策



高度情報化社会におけるさらなるセキュリティ需要の拡大

- これからは情報の奪取だけでなく、自動車乗っ取り等人命にも関わるような事態も

Robotics

IoT, IIoT

- 窃取した情報、ハッキングツール等闇社会で売買

DarkWeb

- 工場自動ネットワーク化普及と乗っ取り

- ランサムウェア (身代金要求型マルウェア)
- フィッシング詐欺

ビッグデータ

- IoT家電の普及と乗っ取り
- 仮想通貨の流出

マイナンバー

- 自治体情報システム強靱化
- セキュリティ対策強化

サイバー攻撃

- Webサービスの停止、改ざん

ウイルス等マルウェア

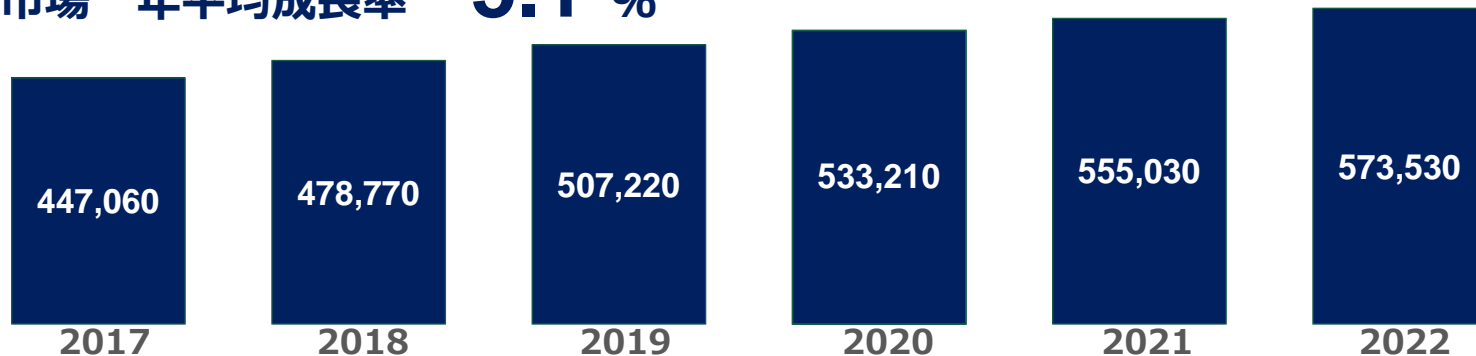
- ウイルス等黎明期は愉快犯や自身の技術カアピール

☆ 世界各国のコンピュータが接続 ☆



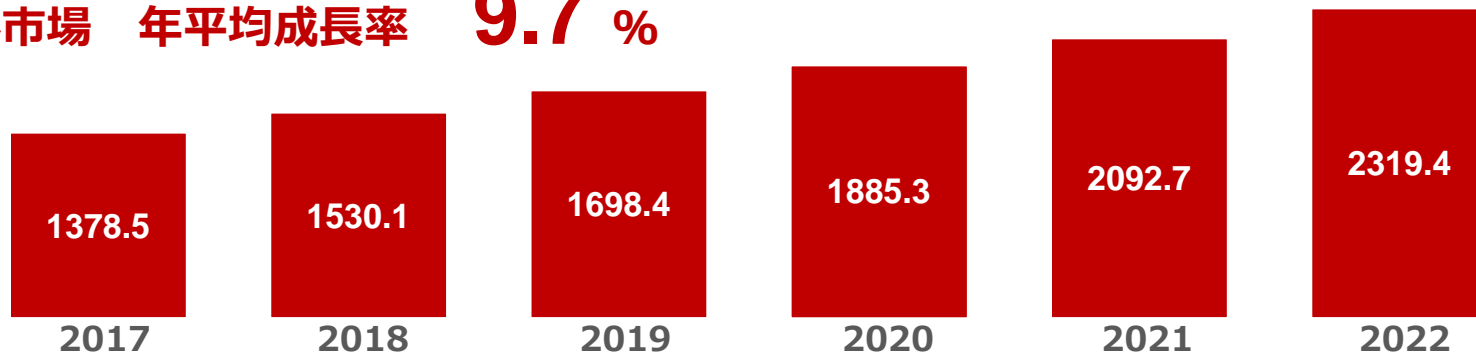
日本市場 年平均成長率 5.1 %

単位：百万円



世界市場 年平均成長率 9.7 %

単位：1億ドル



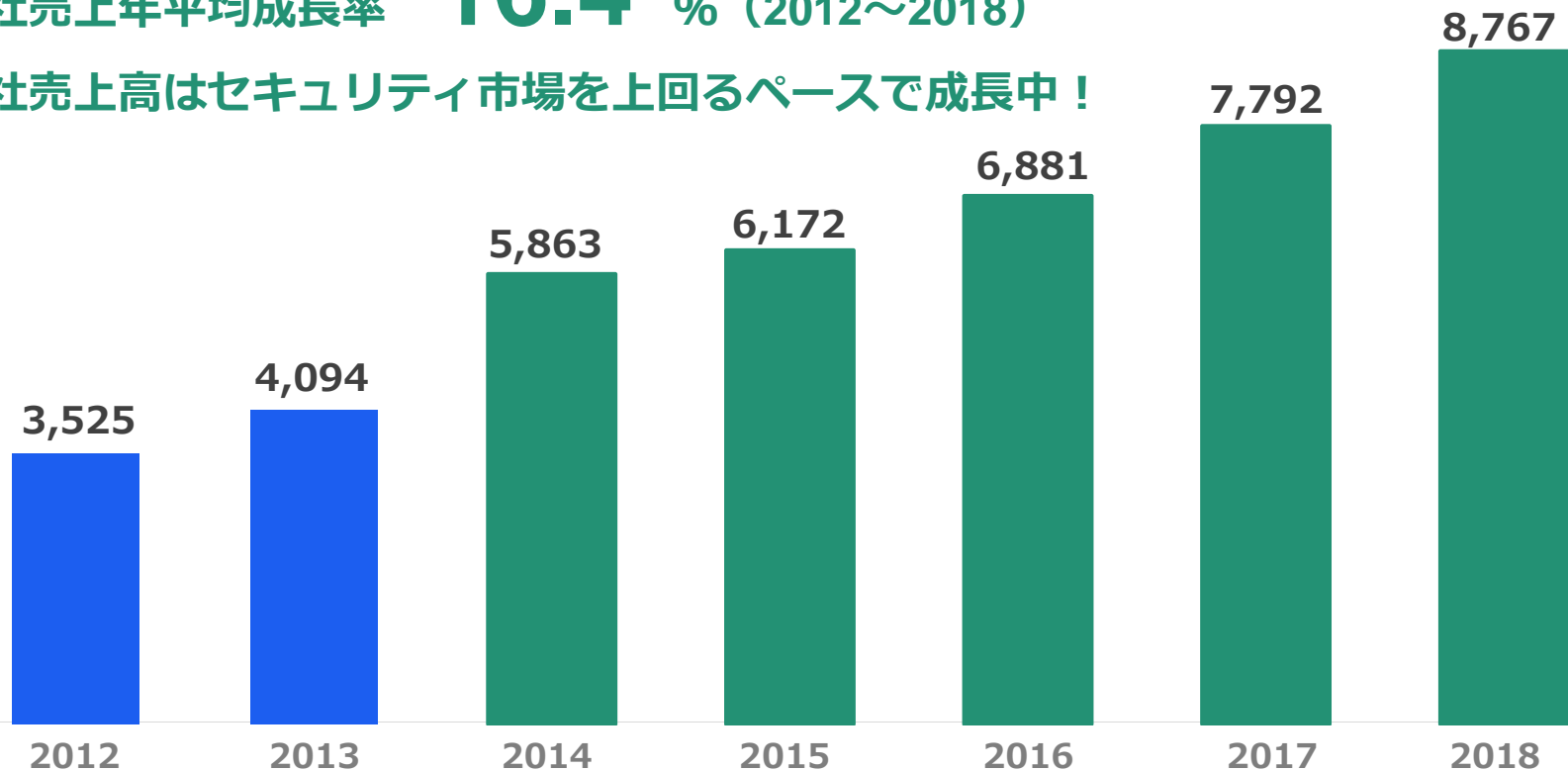
出所：富士カメラ総研「2018 ネットワークセキュリティビジネス調査総覧」

日本貿易振興機構（JETRO）レポート「拡大するサイバーセキュリティ市場」

当社売上年平均成長率 **16.4** % (2012~2018)

単位：百万円

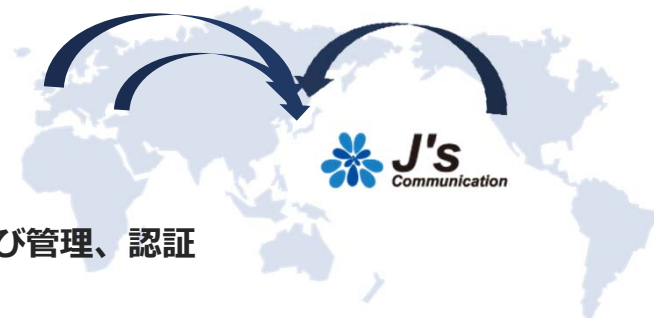
当社売上高はセキュリティ市場を上回るペースで成長中！



※2012年および2013年の数値はジェイズ・コミュニケーションの実績数値による

最先端技術、グローバル技術、ニッチ技術等 搭載したプロダクトを
米国をはじめとするセキュリティ先進国から輸入

エンドユーザーの要望に応じ、最適な製品を提供



セキュリティ分野 取扱製品

- Firewall/ VPN
- 次世代Firewall
- マルウェア対策等の機器
- IPアドレス管理等のソフトウェア
- UTM ・ WAF
- セキュリティ脆弱性診断及び管理、認証
 «自社開発製品»
- インターネット分離ソリューション「SCVX」
- ワンタイムパスワード認証
 シングルサインオン「Wisepoint」シリーズ

主な輸入代理店契約メーカー



NWインフラ	サイバーセキュリティ対策ソフトウェア	モビリティ・認証
GWセキュリティ		Wi-Fi
	<p style="text-align: center;">AI・自動化のソフトウェアにより セキュリティ技術者の不足を補い 安全、快適なソリューションを提供します。</p>	
ルーター		リモートワーク
<p>MXシリーズ</p>		
スイッチ		認証
<p>EX/QFXシリーズ</p>		
SDN	<p style="text-align: center;">インテグレーション・トータル提案</p>	
<p>Contrail</p>		

インテグレーション・トータル提案



ネットワーク セキュリティ



ITインフラ

次世代脅威防御型ゲートウェイシステム
(Juniper)

VPNシステム
数百、数千の拠点数のある企業等

インターネット分離ソリューション(SCVX)
自治体、製造業、医療機関等

脆弱性リスク管理システム
(Rapid7)

IPAMソリューション
(BT)

ITネットワーク基盤
(Juniper等)

通信事業者 データセンター

サービスプロバイダ

官公庁、地方自治体
大学等、教育機関
大規模企業

中堅企業
中小企業

小規模企業、SOHO
コンシューマ

当社グループの
得意とする顧客層

WiFiソリューション
(Ruckus)

仮想サーバ基盤

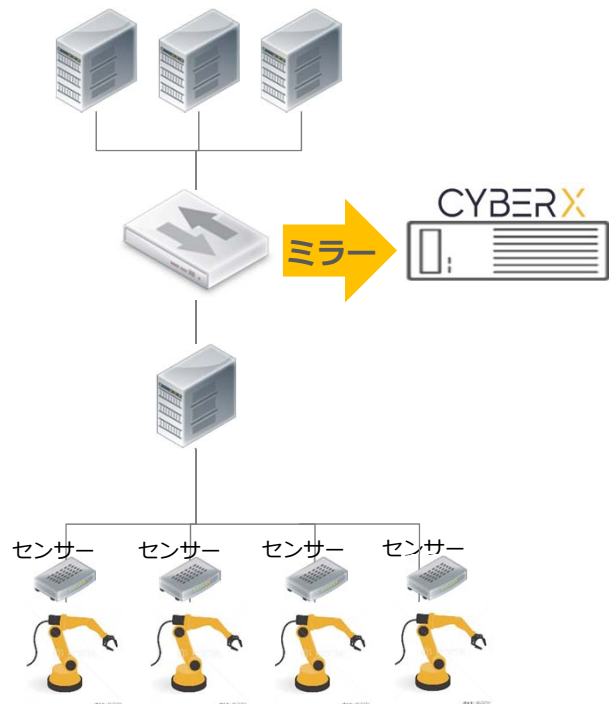
STELLAR CYBER社 Starlight

Starlight は、ネットワーク、サーバ、アプリケーションなどあらゆる環境のデータを効率的に収集・処理をおこないAI（機械学習）を利用して大量のアラートログからノイズを遮断し高い品質と精度により対処すべき異常のみを警告します。
セキュリティ担当者またはMSS（マネージドセキュリティサービス提供者）は異常に対して効率的で効果的な対応ができます。

約**10,000件**のアラートから重要なアラートを検出するのに
人力で**数ヶ月**かかっていたものが、
Starlightで実証実験を実施したところなんと**約10分**で検出！



ICS (Industrial Control Systems 産業用制御システム) 向けのセキュリティプロダクト。
対象ICSネットワークの packets をミラー取得し、サイバー攻撃による異常検知ならびに
アセスメント (NW図示、脆弱性診断) を1プロダクトで実現。



■ CyberX Xsense特徴

- ・産業用制御システムの自動検出、ネットワークマッピング
- ・産業用制御システムの脆弱性検出、レポート
- ・脆弱性に対する攻撃シミュレーション、対策シミュレーション機能
- ・機械学習による異常検出
- ・ファイアウォールとの連携

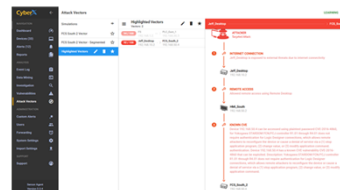
アセスメント

修復 / 改善

運用



- NWの把握
- 脆弱性の把握



- 攻撃ベクトルシミュレーション



- 異常検知
- 隔離

SCVXバージョン3.0をリリース

通信事業者やクラウド事業者など複数のパートナー様にてクラウドサービス化を予定
 2019年7月 NTTスマートコネクト「Web アイソレーション」サービスに **SCVX** が採用
 ➤ 現在の15万ユーザから今後2年間で60万ユーザ突破を目指す

“働き方改革”に向けた 新提案

RevoWorks構想を発表



「働き方改革」で企業や自治体がテレワークやリモートワークを積極活用
 リモートアクセス市場、DaaS サービス市場は年20%近い成長予想※

➤ 同市場関連商材にて今後3年間で20億円の売上を目標

※出典：ミック経済研究所調べ 2018年5月8日付 同社プレスリリース

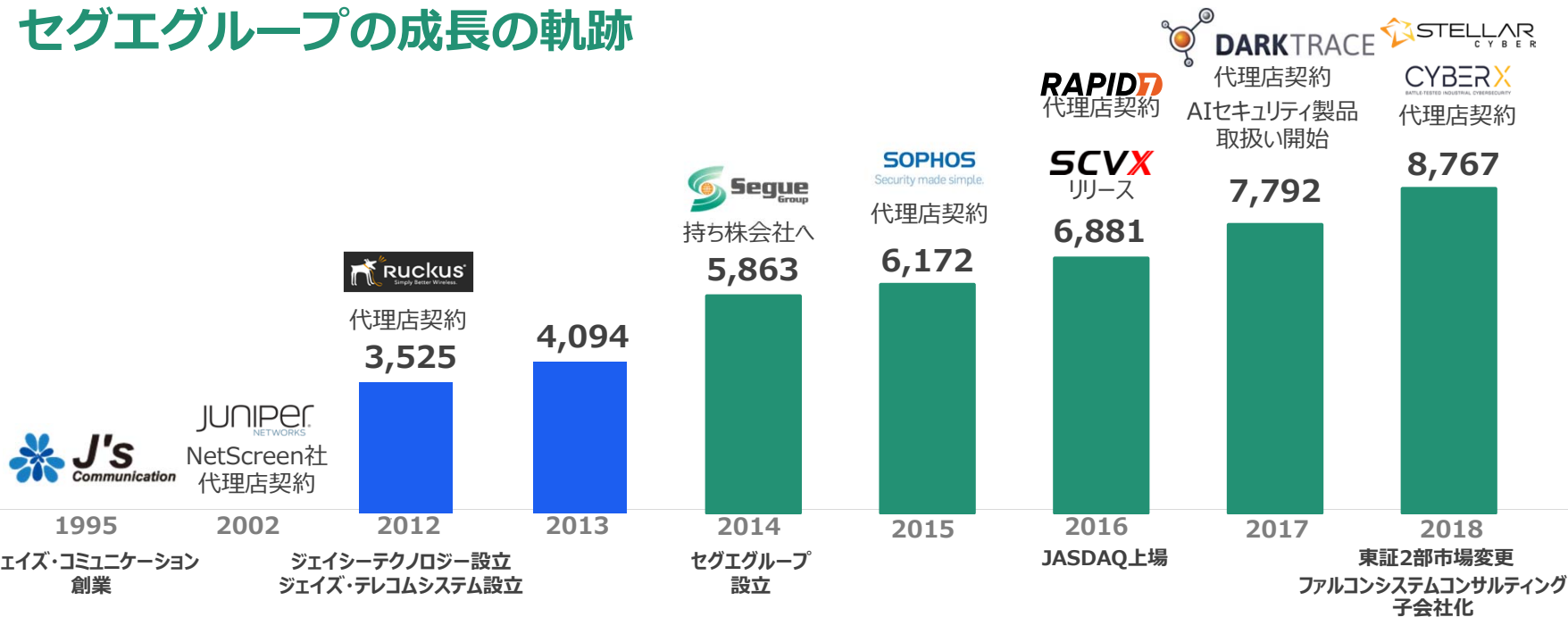
IT技術を駆使して価値を創造し、お客様とともに成長を続け、
豊かな社会の実現に貢献します。



3. 長期ビジョン



セグエグループの成長の軌跡



- ・ 持株会社の下、代理店ビジネス以外の領域を着実に拡大してきている。
- ・ 2012年から16%超のCAGR（年平均成長率）を達成している。
- ・ ジャスダック上場から短期での東証1部昇格を果たした。

セグエグループが目指す長期的な方向性

ネットワークセキュリティの 新たなリーディングカンパニーへ

AIやIoTなどの新しいテクノロジー、ユニークな発想のメンバーを結集した
セキュリティソリューションプロバイダービジネスを展開していき
お客様、パートナーから信頼され、自らが誇れる業界TOP企業を目指します。

市場を取り巻く環境変化

- ▶ 技術革新、AI、デジタルトランスフォーメーション
- ▶ 多様化・複雑化するサイバー攻撃、テロ
- ▶ 地政学的リスク
- ▶ 少子高齢化、深刻な技術者不足

「機会」と「脅威」

- ▶ 変化に伴う新たな成長の可能性
- ▶ 従来型ITから先端ITへの転換
- ▶ 製品軸からサービス軸への転換

▶ 変革により脅威を機会に転換し、継続的な発展へ

経営戦略の基本方針

企業価値向上を追求していきます

- ・ 既存事業分野の持続的成長
- ・ 新規プロダクト、サービス、自社製品、自社サービスへの集中投資と拡大
- ・ M & A 戦略および新たなビジネスモデル創出による爆発的成長

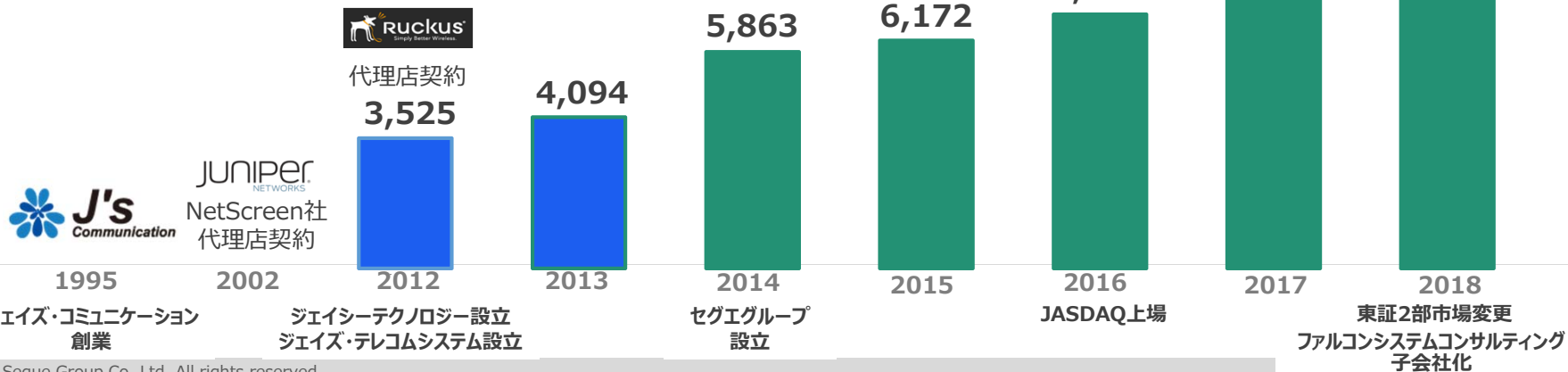


4. 參考資料



参考資料：セグエグループの歩み

- 1995年 4月 ジェイズ・コミュニケーション株式会社 設立（創業）
- 2002年10月 米国NetScreenTechnologies社 ファイヤーウォール製品
（現：JuniperNetworks社）代理店契約を締結
- 2012年 8月 米国RuckusWireless社と代理店契約を締結
- 2014年12月 セグエグループ株式会社 設立
- 2016年12月 東京証券取引所 JASDAQ市場（スタンダード） 上場
- 2018年12月 東京証券取引所 市場第2部上場
- 2019年 6月 東京証券取引所 市場第1部指定



セグエグループとは？

ITセキュリティソリューションカンパニー

ビジネスのコアは？

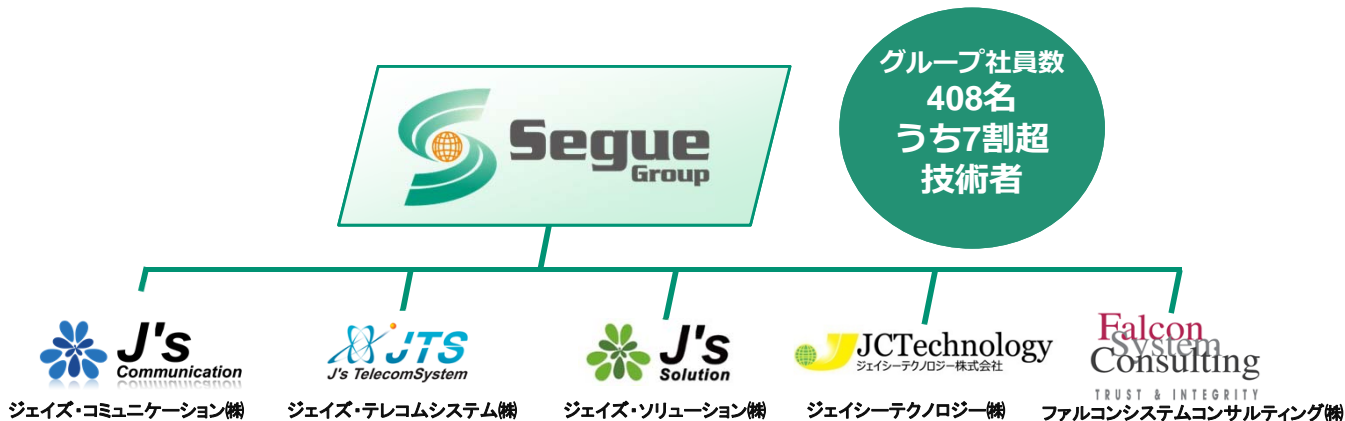
ネットワーク技術 & 情報セキュリティ技術、OSS開発力

社名の由来は？

これからの業界を担うべく、同業企業の仲間を結集し
セキュリティ業界トップを目指す。



Next、続く (to be continued)、間断なく進行する
という意味。同盟、友という意味。



ソリューションプロダクト



ネットワーク
セキュリティ製品



ITインフラ
製品

セキュリティ、ITインフラ製品を
組み合わせたソリューション提供
システムインテグレーション

ソリューションサービス



設計及び構築
サービス



保守
サービス



ヘルプデスク
サービス



その他
(監視・派遣等)

IT技術者 SEサービス

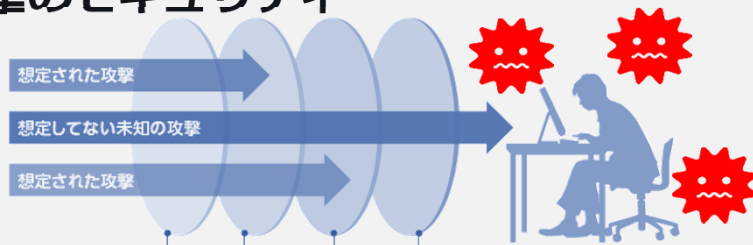
	メーカーとして (ソフトウェア製品)	代理店(VAD)として 海外、国内	システム インテグレータとして
	ソフトウェアライセンス販売 サポートサービス	製品、ソフトウェアライセンス販売 サポートサービス・ヘルプデスク オンサイト保守サービス	ITインフラ、セキュリティ 等の設計構築、導入サービス
プロフェッショナル サービス 設計、構築			
SEサービス 請負い、派遣			
マネージド サービス 監視、管理等運用			

パートナー、システムインテグレータ、お客様のご要望により様々な付加価値をご提供



グループ社員数
408名
7割超が
技術者
(2019年6月末)

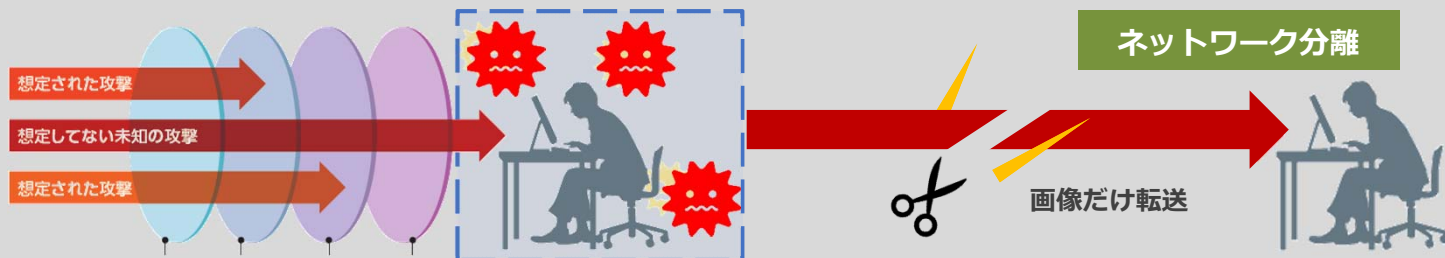
従来型のセキュリティ



企業における情報セキュリティ対策
特にインターネットセキュリティは、
「いたちごっこ」の状態

SCVXによるセキュリティ

侵入されない防御から侵入される前提の防御へ



- ① 攻撃を受けたとしても、その影響は仮想コンテナのみにとどまり、自身のPCは無傷
- ② 自身のPCのブラウザを落とすと仮想コンテナもマルウェアごと消滅

我が国の法人等（組織）が具体的に直面する脅威

提案できる問題解決策

1位 標的型攻撃による情報流出	SCVX JUNIPER NETWORKS SOPHOS
2位 ランサムウェアによる被害	SCVX JUNIPER NETWORKS SOPHOS
3位 ビジネスメール詐欺による被害	GSX GLOBAL SECURITY EXPERTS
4位 脆弱性対策情報の公開に伴う悪用増加	RAPID7
5位 脅威に対応するためのセキュリティ人材の不足	DARKTRACE RAPID7 JCTechnology
6位 ウェブサービスからの個人情報の窃取	Barracuda RAPID7
7位 IoT機器の脆弱性の顕在化	CYBERX BATTLE-TESTED INDUSTRIAL CYBERSECURITY JUNIPER NETWORKS
8位 内部不正による情報漏えいとそれに伴う業務停止	DARKTRACE STELLAR CYBER
9位 サービス妨害攻撃によるサービスの停止	JUNIPER NETWORKS SOPHOS

出典：「独立行政法人情報処理推進機構(IPA)2018年4月 「情報セキュリティ10大脅威 2018」（組織）」

本資料は、情報提供のみを目的として作成するものであり、当社株式の購入を含め、特定の商品の募集・勧誘・営業等を目的としたものではありません。

本資料で提供している情報は、金融商品取引法、内閣府令、規則並びに東京証券取引所上場規則等で要請され、またはこれらに基づく開示書類ではありません。

本資料には財務状況、経営結果、事業に関する一定の将来予測並びに当社の計画及び目的に関する記述が含まれます。このような将来に関する記述には、既知または未知のリスク、不確実性、その他実際の結果または当社の業績が、明示的または黙示的に記述された将来予測と大きく異なるものとなる要因が内在することにご留意ください。これらの将来予測は、当社の現在と将来の経営戦略及び将来において当社の事業を取り巻く政治的、経済的環境に関するさまざまな前提に基づいて行われています。

本資料で提供している情報に関しては、万全を期しておりますが、その情報の正確性、確実性、妥当性及び公正性を保証するものではありません。また予告なしに内容が変更または廃止される場合がありますので、予めご了承ください。

IRについてのお問い合わせ先

セグエグループ株式会社 経営管理部 IR担当

TEL 03-6228-3822

<https://segue-g.jp/ir/contact/>